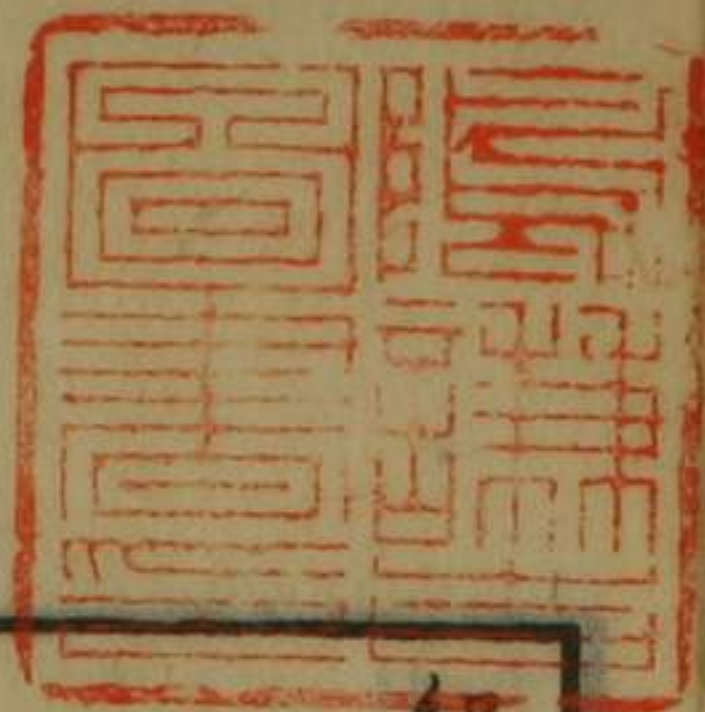


紀伊國名所圖云

三之卷下  
海士郡

ル 4  
325  
5





紀伊國名所圖會卷之三下

住吉神社 <small>住吉神社</small>	宿禰神社 <small>宿禰神社</small>	崇徳寺 <small>崇徳寺</small>	住吉神社 <small>住吉神社</small>
和歌山 <small>和歌山</small>	貴志神社 <small>貴志神社</small>	八幡宮 <small>八幡宮</small>	住吉神社 <small>住吉神社</small>
極樂寺 <small>極樂寺</small>	田中神社 <small>田中神社</small>	廢善光寺 <small>廢善光寺</small>	住吉神社 <small>住吉神社</small>
直瀨神社 <small>直瀨神社</small>	萬福寺 <small>萬福寺</small>	二星上濱 <small>二星上濱</small>	住吉神社 <small>住吉神社</small>
磯乃浦 <small>磯乃浦</small>	古屋の泊 <small>古屋の泊</small>	西福寺 <small>西福寺</small>	住吉神社 <small>住吉神社</small>
十輪寺 <small>十輪寺</small>	弁財天 <small>弁財天</small>	八幡宮 <small>八幡宮</small>	住吉神社 <small>住吉神社</small>
伽藍寺 <small>伽藍寺</small>	弁財天 <small>弁財天</small>	稻荷神社 <small>稻荷神社</small>	住吉神社 <small>住吉神社</small>
竹留八幡 <small>竹留八幡</small>	弁財天 <small>弁財天</small>	親通寺 <small>親通寺</small>	住吉神社 <small>住吉神社</small>
		親月持跡 <small>親月持跡</small>	住吉神社 <small>住吉神社</small>
		八幡神社 <small>八幡神社</small>	住吉神社 <small>住吉神社</small>
		春日神社 <small>春日神社</small>	住吉神社 <small>住吉神社</small>
		楊枝の舟 <small>楊枝の舟</small>	住吉神社 <small>住吉神社</small>
		常行寺 <small>常行寺</small>	住吉神社 <small>住吉神社</small>
		迎々坊 <small>迎々坊</small>	住吉神社 <small>住吉神社</small>
		春日神社 <small>春日神社</small>	住吉神社 <small>住吉神社</small>
		名物系切餅 <small>名物系切餅</small>	住吉神社 <small>住吉神社</small>
		先福寺 <small>先福寺</small>	住吉神社 <small>住吉神社</small>
		潮入橋 <small>潮入橋</small>	住吉神社 <small>住吉神社</small>
		弓團山 <small>弓團山</small>	住吉神社 <small>住吉神社</small>
		春日神社 <small>春日神社</small>	住吉神社 <small>住吉神社</small>
		春日神社 <small>春日神社</small>	住吉神社 <small>住吉神社</small>
		春日神社 <small>春日神社</small>	住吉神社 <small>住吉神社</small>
		春日神社 <small>春日神社</small>	住吉神社 <small>住吉神社</small>
		春日神社 <small>春日神社</small>	住吉神社 <small>住吉神社</small>
		春日神社 <small>春日神社</small>	住吉神社 <small>住吉神社</small>
		春日神社 <small>春日神社</small>	住吉神社 <small>住吉神社</small>
		春日神社 <small>春日神社</small>	住吉神社 <small>住吉神社</small>
		春日神社 <small>春日神社</small>	住吉神社 <small>住吉神社</small>
		春日神社 <small>春日神社</small>	住吉神社 <small>住吉神社</small>

經藏 杖上 舟の御神

祇念寺  
 御所の井  
 蓮華井  
 形見浦  
 淡路神社  
 中言神社  
 友が池  
 八雲寺  
 道祖神  
 圓光大師教化の圖

石山院寺  
 八王子橋  
 親善堂  
 形見山  
 祝詞舎  
 御所  
 新後堂  
 地の小名  
 阿比野

秋ヶ瀬  
 深山  
 小所七度濱  
 報見講寺  
 神嶋

光源寺  
 八王子山  
 行老堂  
 和布製圖  
 昆沙門堂  
 新田店  
 石字堂  
 古城路  
 古物堂  
 五ヶ所額  
 龍浦

光明山善導寺

月村寺にあり  
西山院惣持寺に屬し

奉尊阿弥陀如來

座像  
尺六寸

○服檀弥陀三尊御新  
毎に傍方の寺に來迎の御新あり天竺に  
 上へこれ依りてゆくふまに善寺にてつくろはせり

○親尊上人提仁の像  
長を尺。上人の自體ありて杖をたぐりて  
 六寸。と穿ち提仁は昔辛有りた上人  
 の持りしあまの御衣はひきつる御新あり

○鎮守天満文  
管領の御新ありては  
 火中かまきりてはるる靈像なり

當山の天皇二百代後園融天皇の御代永和四年妙法光融  
 上人の冥卷にて尚昔寺に廣莫の大仏場ありて始  
 祀上人の俗姓とありしは又上登園の人にて父の利根  
 のの某とありける英雄の士ありては初老のありまをい  
 たりて一子ありては夫婦相とありては瓜かたらし子に  
 観音大士とありて持念するに悔るるをりては後信老の  
 寺持心ありてはつりて母とありては瓜かたらしは瓜に

貞和五年の秋容見端の男子公まうけぬきつたおれも父母  
のほごちかこもに唯堂中の珠のこく釣きりつらうもつあ  
さかゝるをけり是上人の出世るう上人初めて凡あつた世の  
考の戯まほも合掌頂礼して誦ふたの必と貝葉と備するの  
むねもきありんる人奇異とせざらへず志るふ父利根君を  
文和四年系師の乳子歿した翌年南無三平十年是より上人  
とあり子あり母との世を養ふけけは九歳たりあひが  
ふと一父君の大伴忠なまご上人未ださきまうゆせとも母  
公よりい父の善授と吊らんとな家傳送にまゐるゝと  
いふにをいひつゝも母らもてこそ成ゆへ一あらびが  
かたきんて空しく年月を過るゝに先づ早もめく  
る去く又もや七廻忌とほも上人の素願承切あ今も康安  
元年は歲二十七にて月必五妻即の戸村ある普光山若し寺

講寺に投して普光法師の後身とな成たまりつて上人寸法と  
楮と雪の意に似ていふ一も未だなくあはれて衆侶  
に秀て聖教の大綱核をせんるとはは圓光法師やうつ  
糸淨土の秘要を授け山楨佛戒の血脈伝はるへ元祖法然  
上人より九世の三流西山門の棟梁となありあつたに至る  
乃ち伽藍造立の費總伝を法心に移懸してその地を  
あつたあひが道よよめて原創の地より五丁辰巳の  
おのりうしと後世にうらんといふ一字と  
造建し道俗公集め一ゆる永不失の法法とてあつたに益  
の利生あつたざりしを近の茨越其の徳とあつた系  
の麻くがごとく星の栴ろとてつとに別院と築く來修院  
三泉庵  
利貞庵崇徳寺若し寺法然寺かの別院あつた教はるの其の  
あつたざりる蟹昌ありけるおつた普光法師退後よりつて  
院の堂へなまうんたまうせてぬまう普光山の第三世不任



去るあひけつらう終る長元年二月廿九日法晴八十一日く  
住主とて遂更ら其後執持者の用公明秀光雲上人も  
了び湯とめつらうとるども終る起る為の徳ありとて  
漸廢頽にわびたよ天の兵火おたに付定まつるまで  
とて燒失し今焼に存するものも多し後これらて  
かげ終るありてわらさるるなり

○什寶菩薩大師自筆の寫經 什寶菩薩大師自筆の寫經

住吉神社 推取村あり 尊而不の神二座 蛭蛭神一村の産神なりと例

受陽公如豆院總持寺 推取村あり漢土祖西公流の櫻木七ヶ寺の其一

本尊阿弥陀如來 和歌山縣長ケ六尺佛之淨而の作れりて白毫の佛會

陀如來を尊とす尊とん人の化るる公流の祖山十四世終上人は  
此の像に於て尊とん人の化るる公流の祖山十四世終上人は  
此の像に於て尊とん人の化るる公流の祖山十四世終上人は  
此の像に於て尊とん人の化るる公流の祖山十四世終上人は

去るあひけつらう終る長元年二月廿九日法晴八十一日く  
住主とて遂更ら其後執持者の用公明秀光雲上人も  
了び湯とめつらうとるども終る起る為の徳ありとて  
漸廢頽にわびたよ天の兵火おたに付定まつるまで  
とて燒失し今焼に存するものも多し後これらて  
かげ終るありてわらさるるなり

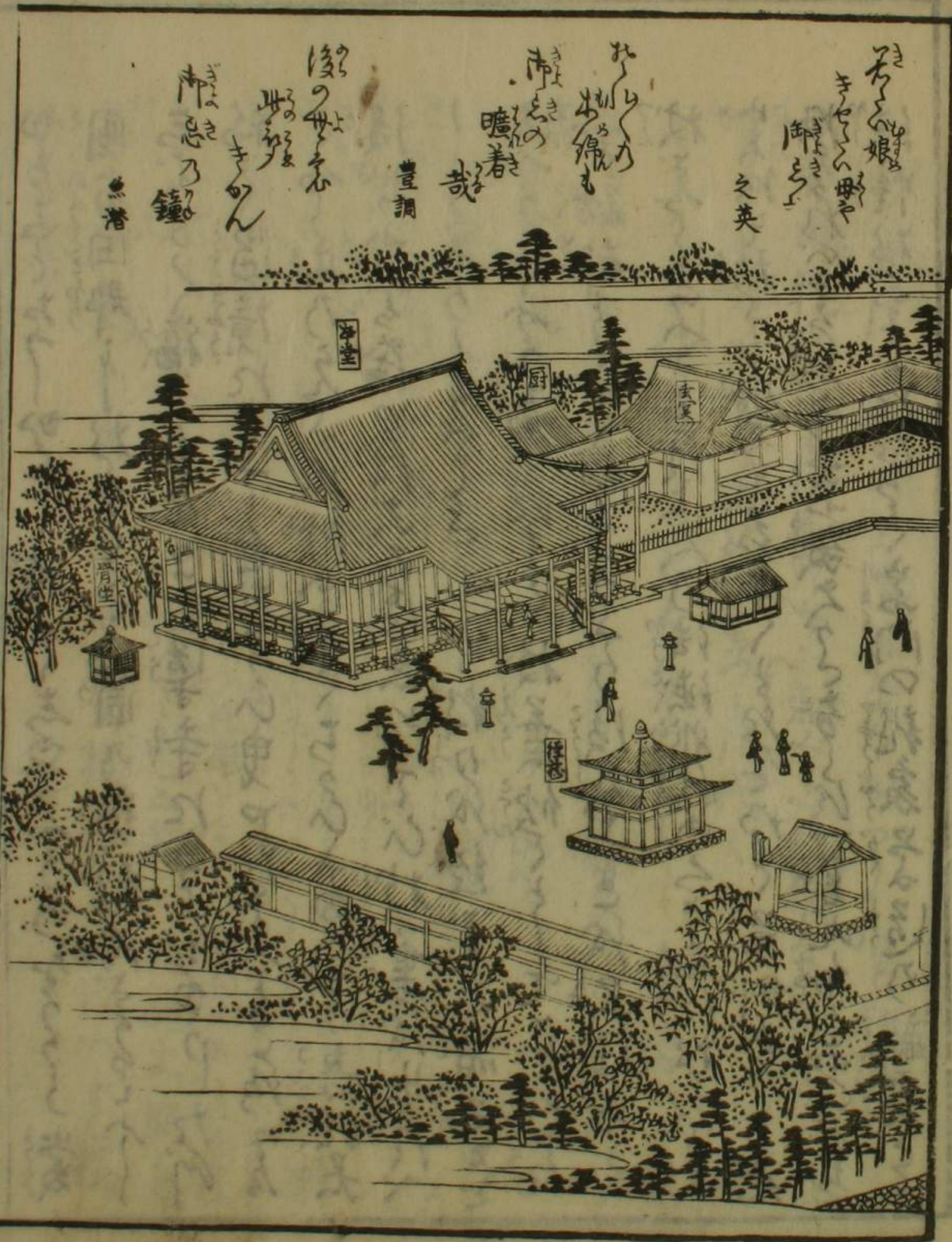
○什寶菩薩大師自筆の寫經

住吉神社 推取村あり 尊而不の神二座 蛭蛭神一村の産神なりと例

受陽公如豆院總持寺 推取村あり漢土祖西公流の櫻木七ヶ寺の其一

本尊阿弥陀如來 和歌山縣長ケ六尺佛之淨而の作れりて白毫の佛會

陀如來を尊とす尊とん人の化るる公流の祖山十四世終上人は  
此の像に於て尊とん人の化るる公流の祖山十四世終上人は  
此の像に於て尊とん人の化るる公流の祖山十四世終上人は  
此の像に於て尊とん人の化るる公流の祖山十四世終上人は



ゆりふとちうくく諸くまぎやう乃をうりし出  
園有田郡リおろく十八箇の梵刹瓜さうり  
まじりく福くぬかっ普送寺にきまぢゆりした  
ゆりく曲境にまじりたまひ曳たまふと海と  
さうり木乃えさる瓜地まじりさうり瓜法  
後世おぼろけはまのほきゆらび枝葉瓜生だべ  
しとありし瓜さうりく枝葉瓜生だべ  
まじりく瓜さうりく枝葉瓜生だべ  
志楽齋都くくまじりく瓜さうりく枝葉瓜生だべ  
杖さうりく瓜さうりく枝葉瓜生だべ  
實はも枝さうり瓜さうりく枝葉瓜生だべ  
ゆりく瓜さうりく枝葉瓜生だべ  
法障おぼろけはまのほきゆらび枝葉瓜生だべ

小雲集にこまのく大檀林をりか  
正親所院乃兩帝まじりか  
官手ふ命まじりく瓜さうりく枝葉瓜生だべ  
園主乃菩提まじりく瓜さうりく枝葉瓜生だべ  
よりまじりく瓜さうりく枝葉瓜生だべ  
俗く宗凡乃光輝日く瓜さうりく枝葉瓜生だべ  
○什寶の畫像法陀如來  
梵縁ある業の法陀如來  
百く瓜さうりく枝葉瓜生だべ  
ありく瓜さうりく枝葉瓜生だべ  
ありく瓜さうりく枝葉瓜生だべ  
ありく瓜さうりく枝葉瓜生だべ  
○元祖法然上人真此乃舍利三題  
○元祖大師也  
形く御影  
あしき



九頭神社  
研棒集



宗固の松 貴志村より小 ○勝國のよき後野家の老上田宗固も人  
 世にもきと匠 英雄にしてあつた風流の道おも暗うござり  
 とよこ乃首塚のふとふ手はくく一株の松と極くあふ其  
 真操瓜賞でくまは送愛の樹ありとて

與諸子遊榮谷分題賦得冬嶺孤松 詩意味宗固松宗固松  
在葛嶺西梅村上

祇南海

矯く嶺頭樹亭く天外條根え在僻境名獨自前朝。

偃蓋雲常抱負操霜不凋英雄亦陳跡萬古望岩堯。

北園山碧岩院 旧村あり

本寺観世音 作諸  
不詳

嶺ちの吹上得林寺央ふわ尚の用基にしてわ当彼所を退  
 院のわらふふふに修りて是則修晋の地也○尚寺に焼  
 栴ろ大樹数株ありて生生のはいつてと壯観く遠近の  
 諸人黒き岩日く樹下ふあくとちる実園園の急なるり

夾山

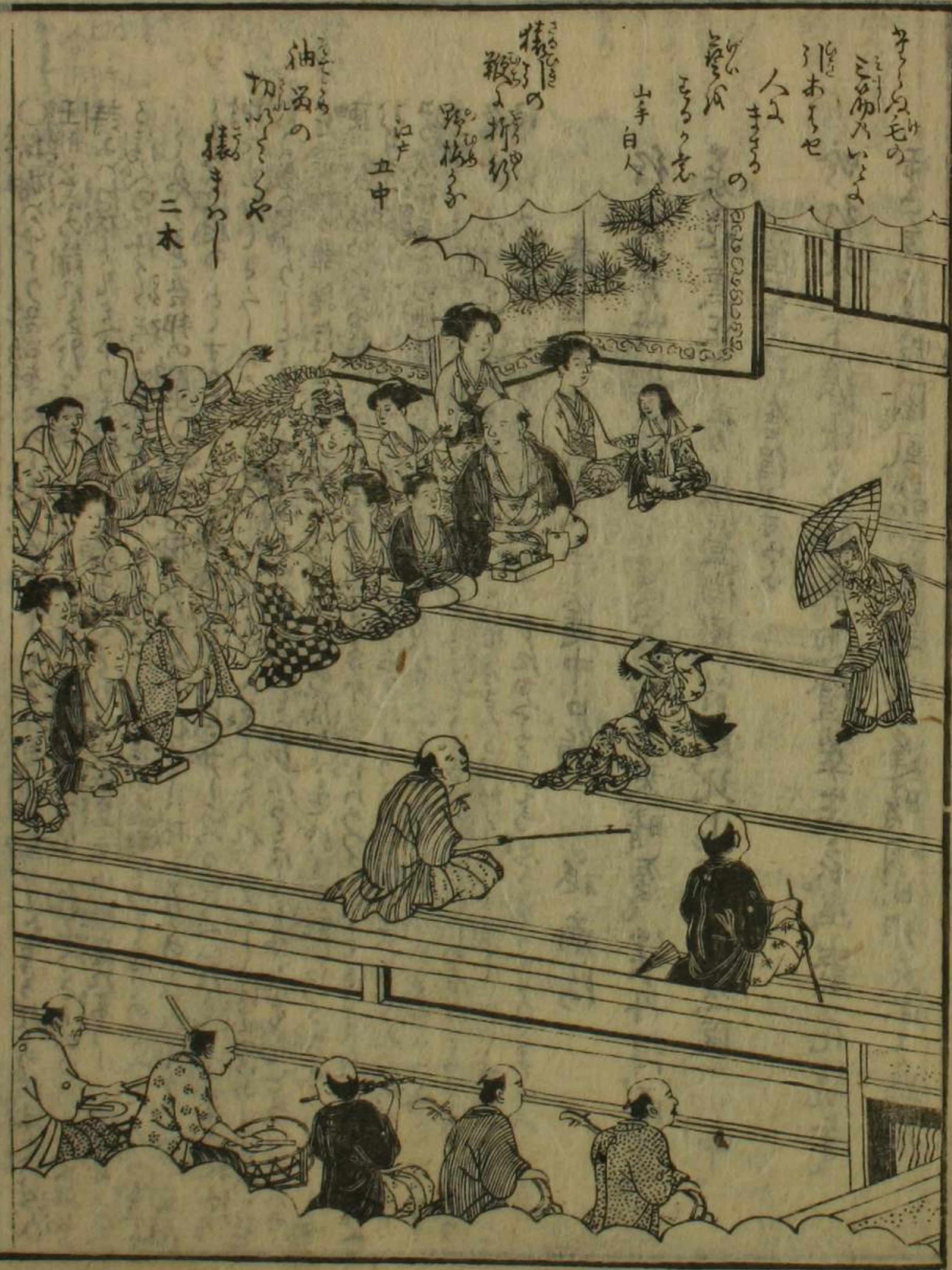


借入道本カ  
 浦鳴州二本邦  
 櫻ヲ詠スル詩一  
 東來初見此花奇  
 無限春叢讓白眉  
 的蜂蟻珠三百斛  
 瑤玉樹萬千枝何妨  
 穠李先春艷不與寒  
 梅遜香枝若使瓊宮  
 裡種清光多似桂開時

空山



空山





岸村行宮

紀伊國守小野朝臣小執實此而還詔賜絕三千足綿二百屯云云  
岸村行宮同甲申到和泉國根郡深日行宮于時西方暗暝異常風雨

紀伊國守小野朝臣小執實此而還詔賜絕三千足綿二百屯云云  
岸村行宮同甲申到和泉國根郡深日行宮于時西方暗暝異常風雨  
紀伊國守小野朝臣小執實此而還詔賜絕三千足綿二百屯云云  
岸村行宮同甲申到和泉國根郡深日行宮于時西方暗暝異常風雨

後張山觀音寺

本寺十一面觀世音菩薩  
作不詳

猿引實志其兵精

猿引實志其兵精  
猿引實志其兵精

于御前為希有事之旨及御沙汰教隆云是匪直之事歟云  
于御前為希有事之旨及御沙汰教隆云是匪直之事歟云  
于御前為希有事之旨及御沙汰教隆云是匪直之事歟云  
于御前為希有事之旨及御沙汰教隆云是匪直之事歟云

本寺八幡社

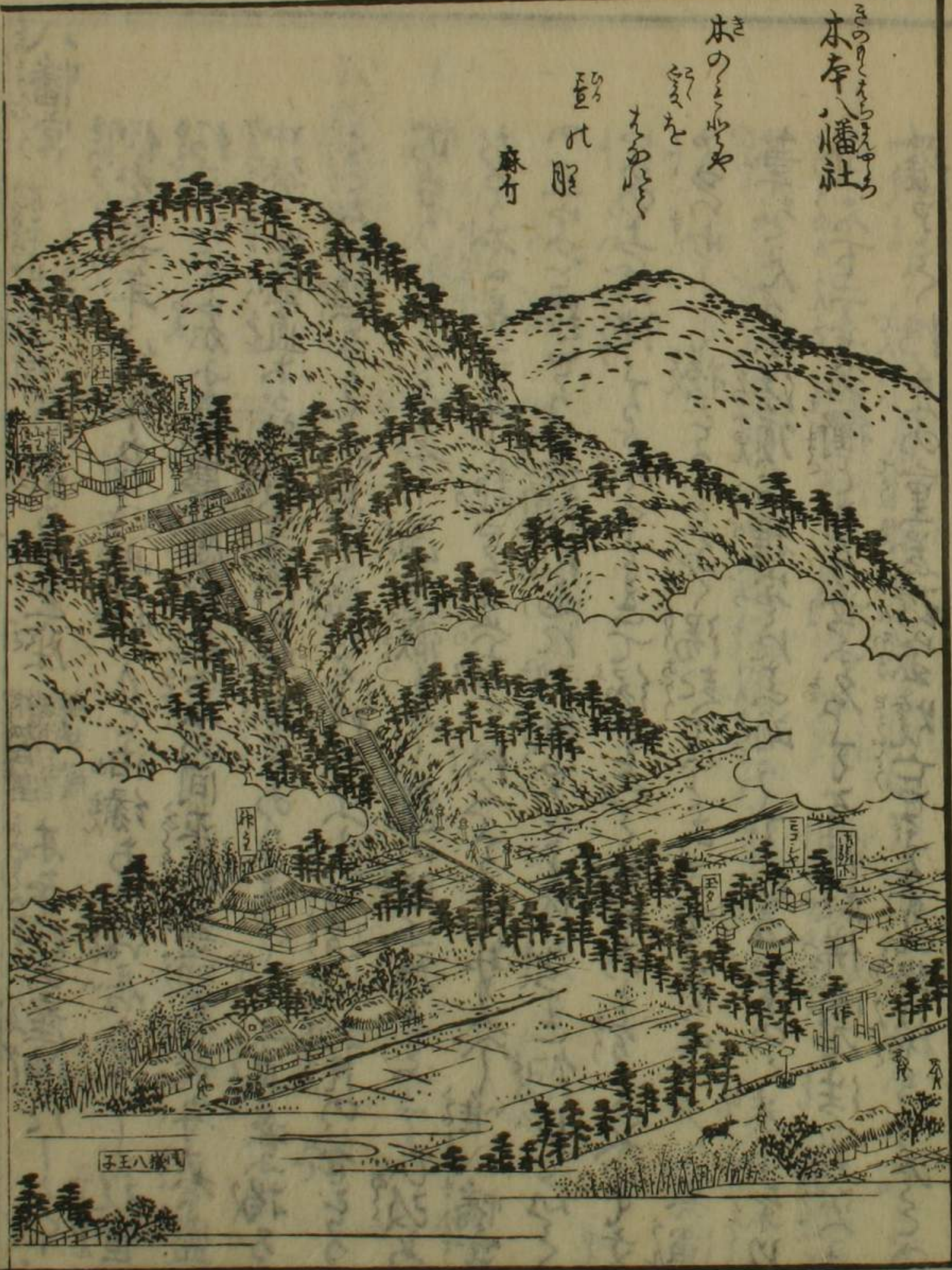
本のこや

を

を

を

を



子王八

八幡宮

本庄本村の

○祭る神ニ座

本庄の産神

例年毎年八月十五日○當社より由縁ある宮居ある下祝官

例年毎年八月十五日○當社より由縁ある宮居ある下祝官

例年毎年八月十五日○當社より由縁ある宮居ある下祝官

例年毎年八月十五日○當社より由縁ある宮居ある下祝官

例年毎年八月十五日○當社より由縁ある宮居ある下祝官

例年毎年八月十五日○當社より由縁ある宮居ある下祝官

本家の... 十種... ども... ともく好古の士の...

古額之圖

小野道風筆



長三尺四寸五分 横一尺八寸五分

葛城山

葛城山 葛城郡の郡山... 二十里のあまのり... 葛城山は葛城郡の郡山... 二十里のあまのり... 葛城山は葛城郡の郡山... 二十里のあまのり...

堀の浦

堀の浦 堀の浦の浦の浦... 堀の浦は堀の浦の浦... 堀の浦は堀の浦の浦... 堀の浦は堀の浦の浦...

塩竈地蔵尊

塩竈地蔵尊 日村八幡宮... 塩竈地蔵尊は日村八幡宮... 塩竈地蔵尊は日村八幡宮... 塩竈地蔵尊は日村八幡宮...







松江濱  
蛤貝

小貝拾人人

遠とに

春乃風

洛定雅

松江 東紀伊中村西村あり紀の川の傍にあり西の村の根持とて松屋敷の村  
 八幡宮 一村の産神ありて例を毎歳九月十日  
 稲荷大明神 狐嶋村あり 多る神二座 松屋敷令○本は神名此は從四位上  
 例 松屋敷令○本は神名此は從四位上 例

松江の風はなるや小の磯くろ青の日景を合ぐ金巻の  
 色を醸し南の磯くろ蒼海月めを浮く磯の光と  
 唐たり松江を松の幸無たる冬の雪は白濱を  
 沙の鮮明たる夏の雪とらうり千維の都城の内外  
 に従舟へ二子の島渚波浪に浮き水天の影を

たに河との二圃二圃の翠黛たり花露る舟常に催ぐ子  
陵が釣もつとある一とまぶ月と感あり雪と奥ありゆと  
ひろくい松の葉に砂ととめ濱よりつてあきう貝乃  
りさうらまで凡流俗子のこころめたる四月のあまの地  
るるく一 名産沙利貝 あきりのかべく説くところをいふ浦を名する  
の説かたはこれなり松の葉に砂ととめ濱よりつてあきう貝乃  
りさうらまで凡流俗子のこころめたる四月のあまの地  
鱸 あきりのかべく説くところをいふ浦を名する  
の説かたはこれなり松の葉に砂ととめ濱よりつてあきう貝乃  
りさうらまで凡流俗子のこころめたる四月のあまの地  
一奇匹 松露 鳥貝 あきりのかべく説くところをいふ浦を名する  
の説かたはこれなり松の葉に砂ととめ濱よりつてあきう貝乃  
りさうらまで凡流俗子のこころめたる四月のあまの地

壬生百首 紀の海を春ののどふ立ちくけさきとに沖津をぬ 松大納言及原の事

鳴啼山寺 松露 鳥貝 松露 鳥貝 松露 鳥貝

和田十軒 東海江の舟のりく白川の舟のりく人住のりく人住のりく  
舟のりく人住のりく人住のりく人住のりく人住のりく人住のりく  
舟のりく人住のりく人住のりく人住のりく人住のりく人住のりく  
舟のりく人住のりく人住のりく人住のりく人住のりく人住のりく

慶善光寺 日村山を所ありしりし由あり地あり又傳あり  
慶善の寺ありしりし由あり地あり又傳あり  
慶善の寺ありしりし由あり地あり又傳あり

揚柳山観通寺 日村山を所ありしりし由あり地あり又傳あり  
揚柳の寺ありしりし由あり地あり又傳あり  
揚柳の寺ありしりし由あり地あり又傳あり

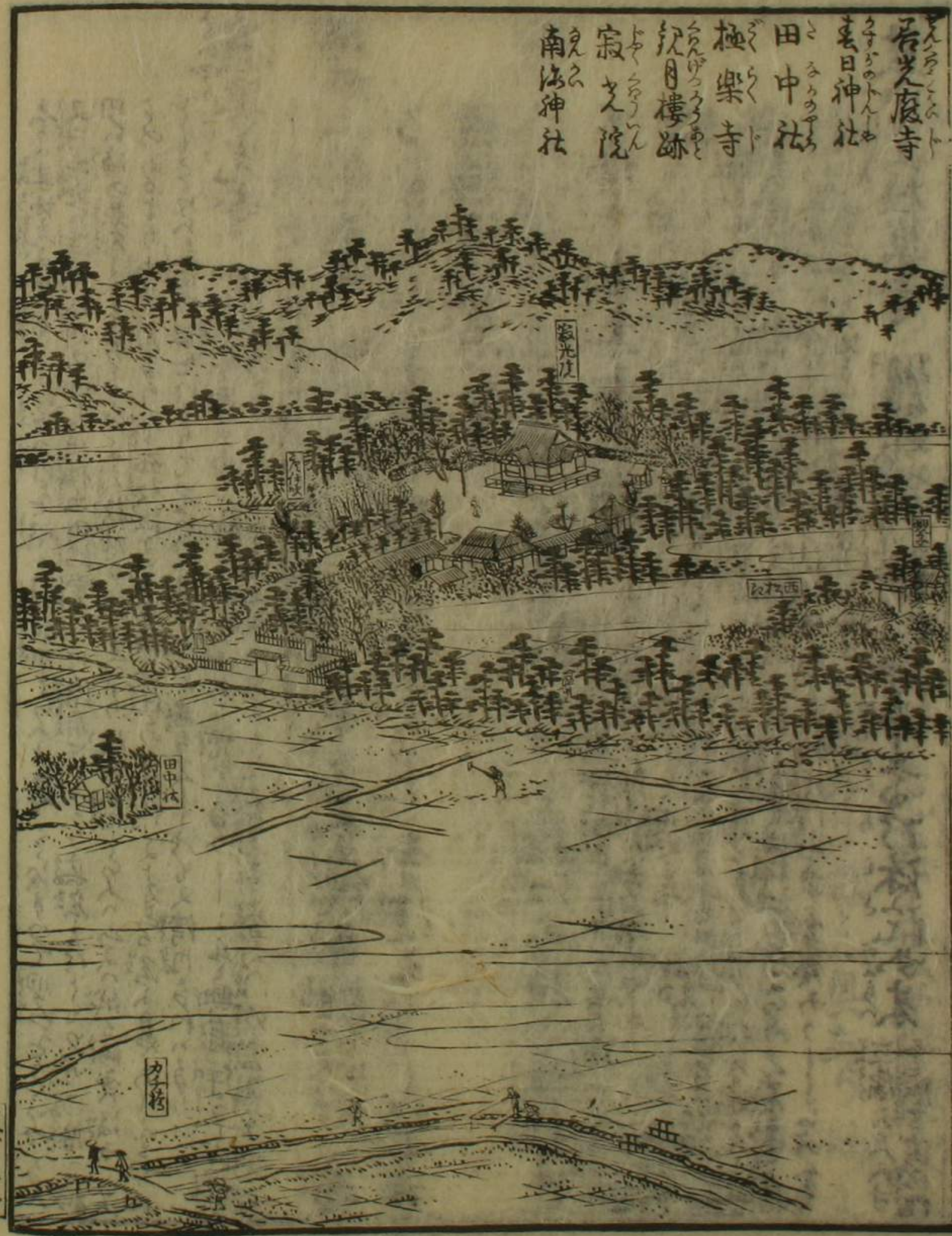
春日大明神 中松は村 松江三村の産神は  
春日の神ありしりし由あり地あり又傳あり  
春日の神ありしりし由あり地あり又傳あり

て修多羅 毎年六月朔日 日村山を所ありしりし由あり地あり又傳あり  
修多羅の寺ありしりし由あり地あり又傳あり  
修多羅の寺ありしりし由あり地あり又傳あり

松山極樂寺 日村山を所ありしりし由あり地あり又傳あり  
松山の寺ありしりし由あり地あり又傳あり  
松山の寺ありしりし由あり地あり又傳あり



嶋人の  
 あらや  
 きくま  
 赤松  
 山  
 松葉  
 の花  
 花  
 考



吾光庵寺  
 春日神社  
 田中社  
 極楽寺  
 観音楼跡  
 寂光院  
 南海神社

○當寺の由良奥國寺法燈園師の遺弟法庵おちの元基に  
してりて禪宗の淨刹ありし其後其持者の冥公明秀  
上人も修生會のとき門外居たあひしより一圃の緇素歸  
依の心法しし其のとき長二年法嗣の徒播良明石郡魚角荘  
而さき教傳上人おちなむ中奥へ移る宗流の因祖たり  
寂之院 日村の西側はよあり 本寺阿弥陀如来 此寺の味は 當院は古く  
南叡山大日寺の別院ありしが寛延二年九月勢川津城夏藤  
堂彦の家士何某ある人致仕の後難保して雲門おちとつる來  
て信して中奥の祖とん

松江禪菴探題賦得僧家月 祇南海

銀蟾澄寶地 玉露浸金田 彩射毫光直 輪籠淨影圓

更深桂子落 境寂木魚懸 誠向秋懷曉 虛空何處天

觀月樓遺跡 日村海邊の邊ありしと云ふは昔あかぬの銀玉當院遺跡の地ありしとぞ中た廢しし銀玉あり

女塚集

南海神社 日村海邊の邊ありしと云ふは昔あかぬの銀玉當院遺跡の地ありしとぞ中た廢しし銀玉あり 空を排玉彦命 本寺排玉彦命は從四位上海部

例祭毎歲十月十六日 海部彦彦のりら伝説と云ふはあつる例あり

萬福寺 日村ありしと云ふは昔あかぬの銀玉當院遺跡の地ありしとぞ中た廢しし銀玉あり

尚寺より一真言宗ありと云中右虎慶の後傳記を失せられ  
草創の事歴洋をくば堂あり古堂一楹あり枝葉四方俯伏て  
坐す牛のごくにして千載伝歴めしん名松とんんり

八幡宮 中腰村 一座相殿あり 一村の産神にして例祭毎年八月

十五日 社はもと勝國のとき長年同に創建と云ふはありしと云

名物系切餅 日村が多樹送る茶は又證すなるり其製法昔より伝向たりらねて

磯浦 磯浦合の磯根とら入依候にて茶樹は地にりて枝は川海にたつとわひ

嫁の手にやきり解り日あがり那 白多舎



餅屋

志友  
 賞  
 餠切  
 食  
 手  
 切  
 の  
 餅

乃架  
 海神手纏持在王故石浦廻潜爲鴨  
 磯之浦爾来依白浪反下過不勝者雄爾絶多倍  
 二月廿五日浦中臣清庵宛信の宅妻奇  
 十在中

信乃浦大原全淡真人

乃架  
 海神手纏持在王故石浦廻潜爲鴨  
 磯之浦爾来依白浪反下過不勝者雄爾絶多倍  
 二月廿五日浦中臣清庵宛信の宅妻奇  
 十在中

浦中  
 臣清庵  
 宛信  
 の宅  
 妻奇  
 十在中

乃架  
 海神手纏持在王故石浦廻潜爲鴨  
 磯之浦爾来依白浪反下過不勝者雄爾絶多倍  
 二月廿五日浦中臣清庵宛信の宅妻奇  
 十在中

浦中  
 臣清庵  
 宛信  
 の宅  
 妻奇  
 十在中

蒼茫海天迫  
 窮目浩烟波  
 朝宗江漢水  
 不作一滴多

萍亭



江南一夜競  
 紛華滄海秋  
 高雲不遮羅  
 綺能留明月  
 色清光偏在  
 莫愁家

縣周南

奉服八幡宮  
 二里ヶ谷  
 八幡宮  
 道に詳人由良  
 雄生産之石  
 研あり



春日大明神 日野村にありけりとも

光福寺 日野村にありけりとも

十輪寺 日野村にありけりとも

阿伽井 日野村にありけりとも

古屋の泊 日野村にありけりとも

湯杖の井 日野村にありけりとも

入橋 日野村にありけりとも

轉法輪山伽陀寺 日野村にありけりとも

金剛童子社 日野村にありけりとも

花四の井 日野村にありけりとも

夫由山神變大菩薩 日野村にありけりとも

人皇十代醍醐天皇の勅願によりて七堂伽藍と御創建  
ましくけりて尊れ天場あり住古大門の攝堂場の莊嚴  
鐘樓井棟建ち僧坊覺をこころしく魏く造りて哀  
むんふ天の兵火よ烏有くあまると造りて井かこころ  
御代々のしね願ふて毎年二月廿二日の終強の法者法玉  
より集り奉りて友ヶ島とてめ當境にある本物の石のま  
なく修治し定非延長天下安全の護摩供儀のむをす  
ちと悔りてま〜まに聖護院宮三宮後門を南に御修治  
の砌りてあは道院とす 道院後門にありけりとも  
わ〜とあとの旧例にて是道院とて暮るの宿とする  
所あり 〇什寶神變大菩薩御製製條丸文  
〇友ヶ嶋深蛇王の尻  
〇行者母公形

日野村にありけりとも

日野村にありけりとも

日野村にありけりとも

日野村にありけりとも

日野村にありけりとも

日野村にありけりとも

日野村にありけりとも

日野村にありけりとも

日野村にありけりとも

日野村にありけりとも

日野村にありけりとも

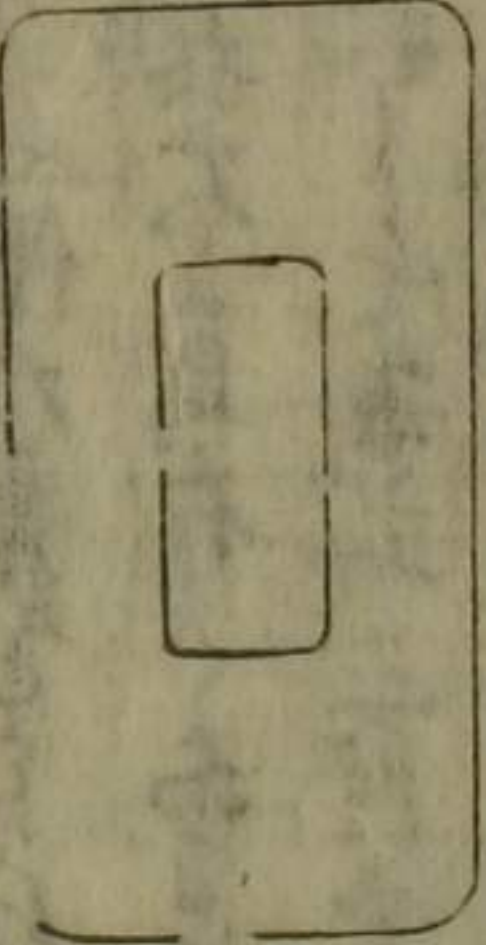
〇行者母公形



錫杖井  
加茂寺  
玉福寺  
常行寺

見の御鑑  
小圓丸  
○月外影の硯  
日上

篠丸印文



外龍の硯

古鏡如明月  
幾人照到今  
不見古人面  
唯見古人心  
玉山秋後

形見御鑑



皇天十六野爾入皇の御影  
玉福寺  
錫杖井  
加茂寺  
常行寺



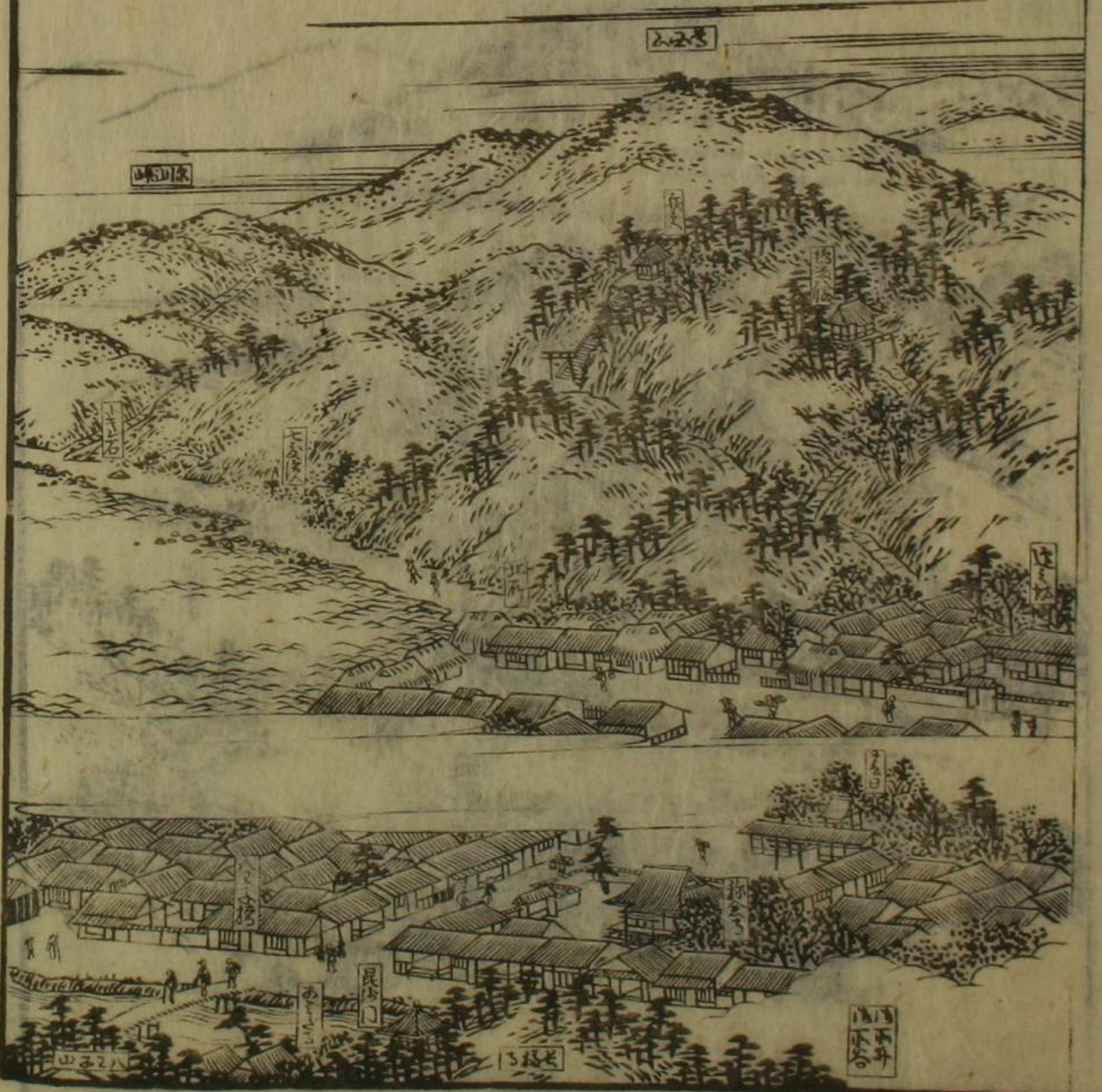
其二

一対の塔を  
よりのある  
浦の波  
横川

城三  
侍  
門の歌  
園水



尊園山  
鶴角八幡  
女財天社  
迎之坊  
奉白神社  
称念寺  
阿弥陀寺  
之原寺  
昆沙門寺





鳩留八幡宮

日高の鳩留にあり

辨財天社

日高の鳩留にあり 其像は役小角の所作

尊圓山三宿谷経塚

日高の三宿谷にあり 其像は役小角の所作

入江宿

日高の入江にあり

五福寺

日高の五福にあり

佛立公常の寺

日高の佛立にあり

奉安阿弥陀佛

日高の奉安にあり

日高の地蔵菩薩 弁財天社 其像は役小角の所作

迎之坊

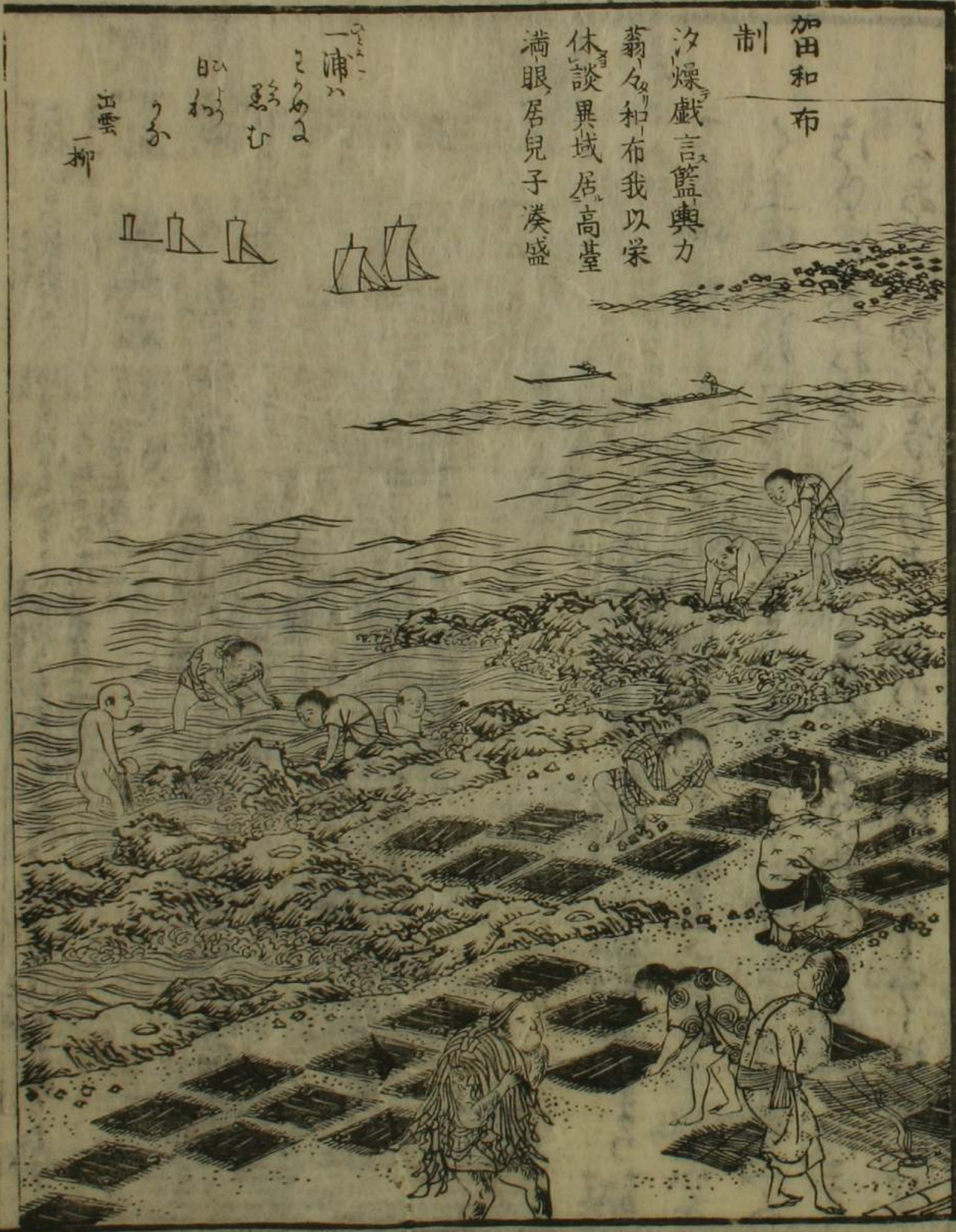
日高の迎之坊にあり

形見浦

日高の形見浦にあり

此地の豊饒なるや松原の津く浦より江都へ運漕する海路の咽喉にして諸回船の上下必ばこゝを過るの所





加田和布

制  
 夕燥戲言籃輿力  
 翁々和布我以榮  
 休談異域居高臺  
 滿眼居兒子湊盛

一浦  
 こゝろ  
 目  
 柳



新田旗店

全坊  
 舟  
 脈  
 河  
 の  
 後  
 機  
 だ  
 て

頭巾石

俗に曰く飲酒に酔ふは若かりし頃にて旧俗ありしはさうててふらり海老巻るるあり  
その由あるをいへるはたわの鯛魚のたぐひなり

道祖神

祭る神岐神  
日向より

日向より祭る神岐神  
日向より祭る神岐神  
日向より祭る神岐神

八王子橋

八王子橋の石土鼻山のふたにあり  
昔に根より龜備来らん橋たけんとははるるをいへるはたわの鯛魚のたぐひなり

古城

八王子橋の石土鼻山のふたにあり  
昔に根より龜備来らん橋たけんとははるるをいへるはたわの鯛魚のたぐひなり

新田

八王子橋の石土鼻山のふたにあり  
昔に根より龜備来らん橋たけんとははるるをいへるはたわの鯛魚のたぐひなり

ては船高の東の総房西の九洲のふたにあり  
く生涯の外のありて教十年より或していづれあり  
たのふたのふたにありて遠近さめぬあり  
たのふたのふたにありて遠近さめぬあり

新田宿

此宿は...  
新田宿のあり  
新田宿のあり





社傳たてつたよらゆ社たてつた少彦名神すくなひこよりなる神皇靈かみみことそのほろりく  
天竺てんじく傲あう少すくまき一ひとはるるも公性こうせいの恢滴くわいてつたること大海たいかいの容水ようすい  
より亦またちるるさくくはなましくける宮みやふたに貴命きのみことと力を勢せを  
心こころ成なりたつて俱ともふけ葦原あしはら乃中津なかつ河か造つくり堅かためあひたるに  
國くにを造つくりて是こゝと平ひらけはるるを造つくりて五穀ごこくと樹こゝろと一ひと先  
草くさ木きの嘗たぐひと其その勢せき毒どくとと一ひと療りょう病びやう乃方のちかたとほるる更さらにちる  
獸けもの昆こん夷いの災わざいは掃はらへてめは禁かぎ壓おさのほを造つくりたるに遂ついにふけ  
ほろりくして跡あとはさめなまされ以上右左記古事記抄に引く  
るん神代かみよの末すえは終はつへて人皇ひとみこと十五代いそごより神功皇后かみこうこうごう自親みかみ二韓かん  
を征せい凱旋かいせんましくける小豆あづき王みことの謀はか及およびつて皇みこと太子みこを  
武内宿禰たけうちすくねに託たくす本もとの氷こほり川がはよりまき日高ひたかの地ちよりさるる魚ういを  
たまらんと官くわん益えき及および難がたはた向むかひたるも鹿しか麋み頻ひんたる凡たゞ  
と起おこし湯ゆ候こう救きうく浪なみを揚あげ漂たふして忽たちち海うみ路ぢ瓜うり失なしめて

進すすむは瓜うり得える事こと一ひとの皇后こうごう親みかみの軀みをなすもなまされ天あま神かみ  
地ちを造つくりてけりけりものたつらん方を造つくりてあまやみく官くわんは  
一ひとの海中うみに投なげあひ其その流ながれまき進すすまめあつた  
一ひとの安やすしと漕こはまき遠とほくつるはなはる  
あつたは必かならずに危あや難がた免まぬれぬあま神かみを造つくりて是こゝと海うみ  
あつたは則すなはち彦ひこ名な命のみことはくは一ひとのけりたるもあま神かみの神かみ傳つたへ  
真まこと助すけありしは瓜うりの感あはれもあひたるに神かみ神かみ傳つたへ  
業わざの祖そ神かみにまはるる皇后こうごう乃妊み娠ごんのほ此こゝを造つくりては  
らもなまされ一ひとの瘴しやう海うみ乃毒どくはまき神かみ神かみのほ遂ついには  
赤あか白しろ乃帯おび下くだりて一ひとの恤あはれもあひたるに神かみ神かみ傳つたへ  
とて親おや帯おび帛ひらと一ひとの瓜うりを造つくりては神かみ神かみ傳つたへ  
卿せい言こと乃のおはるる事こと一ひとの初はつ親おやに憑たもて神かみ神かみ傳つたへ



則其ごとくにはほい業をまつるも其人に神不降立をよ  
平金もよせたまふことにおのき皇后神悦存たうたやうて  
韓圃よて収めたるも一人亦の程くの宮奉納ましくて遂に  
りてく皇太子に日高を命しむい及人忠然を以て皇  
統恙を奉まの神代は後日くく神威を作して宗  
致あもあひけり其のち十七代の帝仁徳天皇治臨を以て  
攝たうたまひに神代あつて新よけたん宮たうてく立て  
二月二日の日下より智海より新殿に遷しなり皇后の神  
靈とりて合を祀り あつてはあひの神は神と合を 其餘二柱乃  
御神としめをまつて一區四座く一卒の地と今の地とより  
て加を粟津大明神と稱す この地はかきと人卒の地と書紀に  
神代而至る世御をくそに上りて まま道社の御神は海路の凡岐と法  
名はゆくとありあひのつたう 獸昆貴乃宮に人攘ひ  
め倉生病御いりてくあうる

ましてはよい夫婦妹脊の守り子とらん女はの長とよは安胎  
平産保護たまひ ふたごの御社よはく神皇の老たうらんをれと  
衆人の湯作敷た歷代候伯の寄附たる本とく真意  
かしてあつてくあうる御神縁にいつく

おたのじんのかみとまあるは世にあひまの神といふ

○その世に例に年二月二日九月九日女子雛ありの狂戯あるまふ  
生古神初皇太后てはく山彦名命の御神像と伝りて出社よを  
納たうたまひくより本を起し其後仁徳天皇の御宇神代  
りて天下婦女幼児の病苦を掃除のま宮に玉玖物と雛  
かして製してたまを叙たぐくあうるまも免とるもゆ  
彦名命の御神像にしてまふまはるる雛あいの巻  
ひんえたり秘つよ

おまらうのどくそあひ神代あはるる人よれり子のたあ



ぐくきり神流の其眉のうに黒子と伝ふんごとや西南  
乃くた浮出たり先加さなく舟を中し其半の首ふりて  
上る所の其地はゆるり陸ふちうたをてさの吹ふちるが  
砂の固廻ずく二里にん是りあんき松着射して其地の  
雑樹をいはれは播くま各月然の趣とさう一時は潮氣に  
流つて亂血たる倉屋を文外に變速けり赤松崎赤砂甬  
鼓匡金崎眠巖なる諸傍ありとくも未奇絶くもつた規  
畫く乃ち沖をふ向は其同相距るく其狭く潮勢はたあ  
に激すも鼓怒くも以て湧をさく混濁して濁まけい  
潰瀆たるはつた恰も百千の迅雷をを響くうううの揮肝  
さるるその尾筒ふびきまの真まをけりや舟既は彼岸ふ  
らんくして是れをむに教てる牆のて板の向はたさりの瓜  
扁が原した一斤の大石りと長く二十切もあつらん彦さの

三つうづうあり半より下におるまきく四の字なるはと  
流ふ皆乃ごとくつふふかていこの足を容る一はふあに歩を  
しりて終終に御滑にしくは終るんごまをりすううと足の  
踏く手乃繋るたもたう唯まうすうく進退がく谷と  
以譲う後あるそのあまを瓜とらんやあるしり男亦よあ  
羊のそ幾く栗く我れはなり改り母とりある明安四のうと  
徐く急く此のし幸へて其絶頂を極る但見一面は  
立所禁殺生穢惡觀念崖序品崖閑伽井深地池細地夫の數  
字と彫るなり是則圓初の時 南龍公の念ふうてま極ほら  
まる亦くく字のま各と人あまう恐動してすく恋風の  
若うま〜是とくくたふ茶の昔草をううに足まう九畔  
下に空あり徑つらふ二尺がうりあるが是より入くと觀念崖と  
人々も猿猴の浮溪よ水を掬まることかこたまて下りあること



二丈のり碑ありて立ち居親王の筆しあり其風却ちふ  
して雅致あり西山の方にも入に極る狡狴の乳ごうなるの  
いよは崖の口あり上界より下界まである大なる谷も下流  
潭澄つてて水泉にもくく試に杖とたてて大湯とせむ  
らあり窟とてく坤軸とてくくく一窟を歩むに崖ふと  
て道とせむ崖とてくくく外の方には竹のりこれに  
ゆふはすの地とてく半の崖は垂まらるの刻樂段とせむ  
射臺にちりしとてくくくくくくくくくくくくくくくく  
畔にみえるたぐくくくくくくくくくくくくくくくくく  
南ふ下ると二百歩斗と巨石林とてくくくくくくくくく  
くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
大なる穴にちりしとてくくくくくくくくくくくくくく  
あへくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

胎内とてくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
まへ肩の終りありとてくくくくくくくくくくくくく  
餘地ありとてくくくくくくくくくくくくくくくくく  
挿索りてゆふ始て物あるとてくくくくくくくくくく  
る亦の碑ありとてくくくくくくくくくくくくくくく  
落にまへゆふ倒まへとてくくくくくくくくくくくく  
くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
百歩ありとてくくくくくくくくくくくくくくくくく  
とくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
あありとてくくくくくくくくくくくくくくくくく  
東山のりとてくくくくくくくくくくくくくくくく  
また懸くくくくくくくくくくくくくくくくくくく



今もく海を以て廢楠のさびける其実を以て水の面  
に抜出するの極の戦の白の影の漸をたすが  
ごとく其冠して立くるごとありて悉く名はるること  
しん支那の身と称するの觀るに比するのあり  
とていひて遠風とて法師のこの地景をふくあれ  
かりとてなれり候しより其名をよぶとるんまの影集  
山とるあり其果より下ふた下より攀つた  
すしとてさうした處によりてあまなる鳴呼るの勢ふ  
るがる險阻ふかきなげとて安閑とてたのめること  
の已う遠風も尚に一爵禄をもくろんだ光を鞘と  
迹風過ぐる徒のたきさした似たりとるより東北する  
と二百歩にして女濱あり其石まの亭ありとて遠風は  
くくおれやあざらふとてさうしたとるどたぢひり一是

女の名のしるす以て立斗崖の上松と生じて冬夏の色とい  
はれたる石の節ふ風よとてはましくあやむたるが海の本に候  
風はまよるごとくいとたたらふとてふかの唐土の綿歩はた  
つべやとてより山の方とて送するた其を其のやたつとて  
まきとて奇あり一牧場ありとて 園君龍種をさてて人  
のふありとてよりふしてさふ少とて十町あまり浦浦にい  
たる海地池あり徑百歩なり行むる徒修くつは是靈蛇の幽  
宅にして笛の音はきくこととてにむ記しとてとるのあり  
此亭とて中たつとてを以てけつとてむらりの蕭管乃具とて推  
するとて瓜とてる護摩場あり修験の徒の付ふとて法とて  
まゐるのあり碑に地の心ふたり友をの觀益とてははく  
度命にやうくありとてとんたんとてとるの記とてゆくりとてそのむにたをひてとて  
つたりとてその文まの妙とて次下とてとる

之北畔上下為破裂狀者曰颯怒濤噴雨水齧野致也南下  
尋巨靈一壁裂者為序品窟其廣才可容人其高摩肩歌仄  
以入則崖樹乎有餘地其始正黑左右摸索而進神定而見  
物側于崖樹乎有餘地其始正黑左右摸索而進神定而見  
六有倒石噬于崖腹曰沙法華經序品第一窟右懸石將墜可  
前後汎潮滿則舟可越山所許步得越地名也一島中突起  
如駝背橐多石少壤不畫餘卉唯松樹數株環之可上山東  
歷指播棋諸山如畫今存存碑記耳自開而所居無  
阻也南下得闕如畫今存存碑記耳自開而所居無  
神島二崖其腹然板緣而上者若龜曝其峭立如塊萬狀起  
者若狗吠其腹然板緣而上者若龜曝其峭立如塊萬狀起  
羊李將軍之虎攬幽之頂應接不暇神島周迴又三王仙之  
西南岑蔚劍池在良位土人傳言角仙得神劍之所謂之  
島者少彥名神祠故在舟過其間有臺備海防祀神功皇云  
布浦與神島隔一帶舟過其間有臺備海防祀神功皇云  
半里得蛇潭壑谷欲探蛇穴者御導險難行乃止為  
木毒卉亂雜塞蹊欲探蛇穴者御導險難行乃止為  
山東北轉倚累出海中若海獺堆險每遊其上為  
島南界南對阿之牟島西接淡之由良峭巖人攀裳欲涉東  
百許步得道鳳崎山勢趨海波底皆龍企若巖若冠置若  
子似圈似白似鳳崎山勢趨海波底皆龍企若巖若冠置若  
道若鳳者愛其居之故得名島之奇觀至巖于巖上懸不可

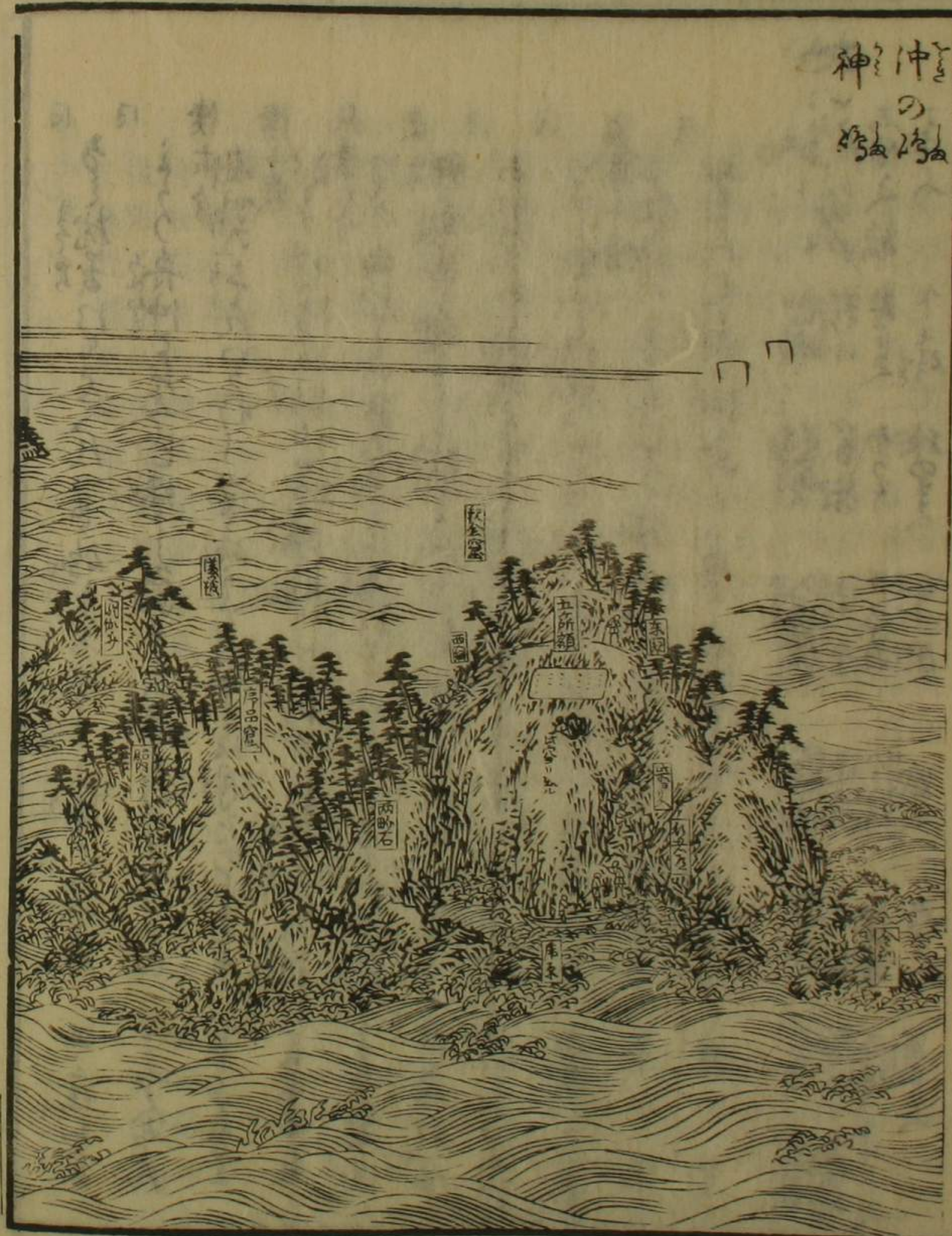
海部西邊有友島多怪巖詭石奇卉異艸古傳以為神仙窟  
宅役小角修道所也余少有志今茲冬十月有公命探島中奇賞  
或為風雨阻不能果遂如行柁席上如日也天晴風和氣色如  
春一碧萬里波瀾不動如行柁席上如日也天晴風和氣色如  
若有所助借愉快甚矣遂得窺其秘窟其蘊島三斷而浮曰  
地島曰沖島唯松島神島謂之氣起下則見一片海岸不遠也  
十里樹唯松島神島謂之氣起下則見一片海岸不遠也  
沖島在其坤位二島相向甚狹故潮水擊怒雷震百里而懸  
波之險舟人比諸無異觀其奇絕特在沖島未達彼岸而  
側居西南為眉上鳴地島向甚狹故潮水擊怒雷震百里而懸  
崎眠巖之諸勝無異觀其奇絕特在沖島未達彼岸而  
之湧出波向如敵牆者為積環踏以登則可以容足廣三之一  
半以下累如敵牆者為積環踏以登則可以容足廣三之一  
置而一脚綠漸踏且進若積環踏以登則可以容足廣三之一  
無可措手不得扳窮將天仰視先登者已極絕巖先鳴誇捷  
余蛇行也加井深蛇池飛動為鳳翥勢一奇龍公命李衡窟  
序品窟也字大尺三寸飛動為鳳翥勢一奇龍公命李衡窟  
正所書徑可二尺懸而下得觀念窟之廣袤可二觀也少下  
畔有穴徑可二尺懸而下得觀念窟之廣袤可二觀也少下  
其口道是親王所書筆力勁古雅致可愛乃磨墨打之西  
響有口道是親王所書筆力勁古雅致可愛乃磨墨打之西  
振大壑爽然有揮斥八極之想窟外有底之洲倚劍一嘯  
而外也傾就而睨之膽已落矣履之背遠巡足分垂在廣尺  
不當比也雖禦冠射不得已落矣履之背遠巡足分垂在廣尺  
不能進從前穴出同行者朝余為盜使余辟以強弩未力崖







神鳴や  
船  
尾全



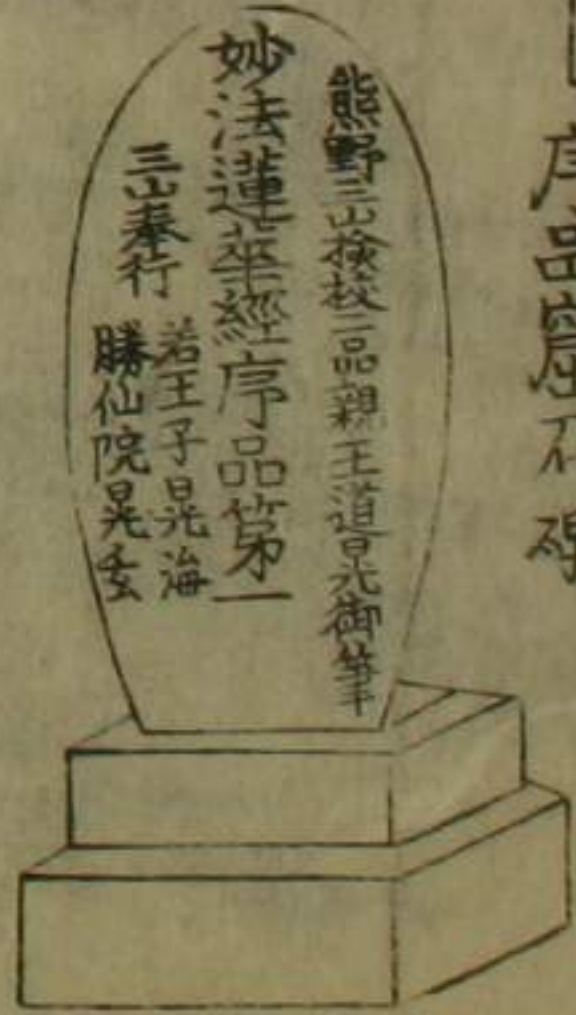
神鳴や  
船

友嶋五所石碑之圖

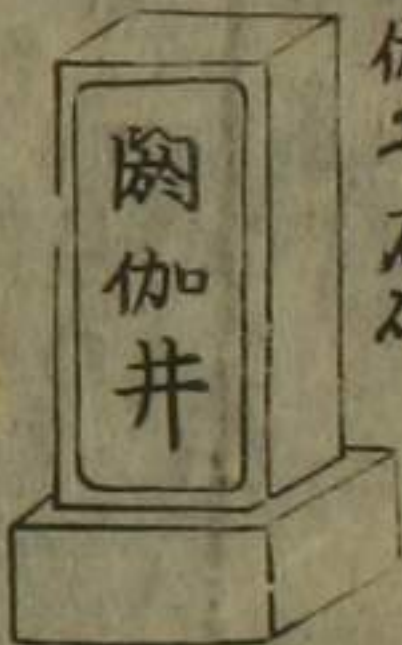
観念窟石碑



序品窟石碑



関伽井石碑



深蛇池石碑



観之池石碑



類五所友嶋

禁殺生穢惡  
友嶋五所

観念窟

序品窟

関伽井

深蛇池

寛文九巳酉 雕

沖の亭小名

子持石  
かち谷

平入  
浦

神鳥

公重たふ

飽等濱

右の石  
目

長谷  
浦

小の浦  
浦

五所の所  
浦

秋ヶ瀬  
浦

此浦の  
浦

あついで  
浦

馬が  
浦

小真浦  
浦

小真浦  
浦

長谷  
浦

小の浦  
浦

五所の所  
浦

秋ヶ瀬  
浦

此浦の  
浦

あついで  
浦

馬が  
浦

小真浦  
浦

小真浦  
浦

小真浦  
浦

池  
浦

池  
浦

池  
浦

池  
浦

池  
浦

池  
浦

池  
浦

池  
浦

池  
浦

池  
浦

池  
浦

池  
浦

池  
浦

池  
浦

池  
浦

池  
浦

池  
浦

池  
浦

池  
浦

池  
浦

池  
浦

池  
浦

池  
浦

池  
浦

池  
浦

池  
浦

池  
浦

池  
浦

池  
浦

池  
浦

まて釣舟あし  
これて櫻舟に又其漁の味なり未あけの味なり也  
 又本野原浦より出魚つさしりみよれば漁令又田沼を  
 あすめしと細をさし  
是に五箇細と云 その味も妙なり  
 際のも業つても真ある事ごもあり

万葉 細川鳥海子哉見飽浦清荒磯 見來 昔 梓本人磨

紀の國乃飽浦のふ々の名に口をいへて終してくさるも 後今あ片 一さの抄

深

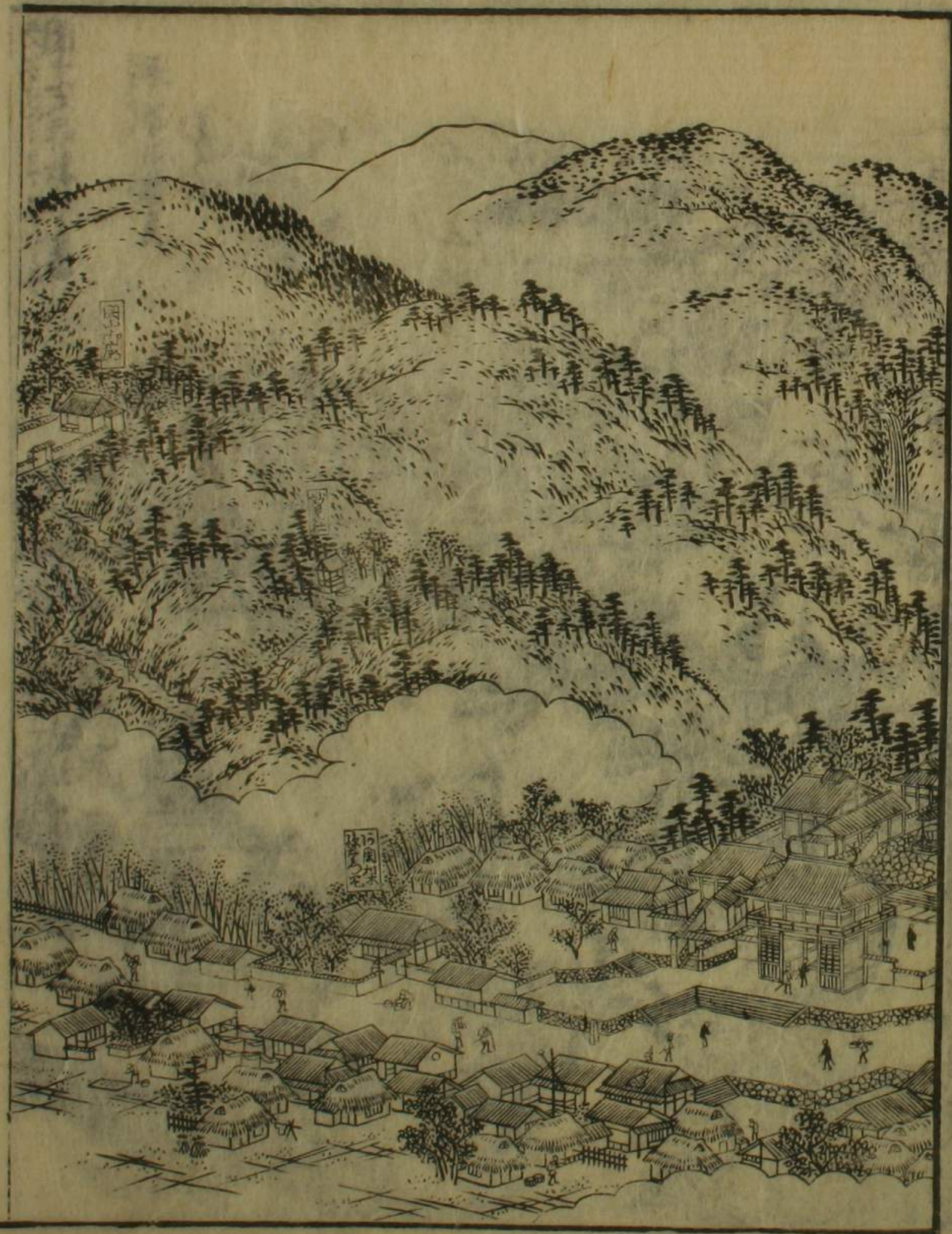
此地在山より流れぬ吹細あり山頭之雑樹とてくさんとして  
 たま山勢に走らうて偃伏の態もき妙とて張る蓋  
 のぶくー麓より十餘のりく時ふく東南の衆岳峯  
 を抽くくわな園と西山はみ射して朗ちり其穴芝と  
 して倉敷の上たきて相拱揖とすよりの洪の千光寺とん

其地勢相梅せんとして中節一山に向くくあつものれ田が押  
 とく一の谷より摩耶武庫の諸山綿くうて波濤と有りや東  
 几折くの蘊釣るとはくもく吹飯乃浦より青澄の海眼を蛇  
 とて是にく翠嶽より大川が里とて一面の白砂皚とて  
 雪灰埋しごごま務より由良の門にる舟人のりも走らぬも  
 空より星一々の勝景に彼長房の縮地の術もうまき

山家集  
 かねたらふ階なる月ををるる月ばかり出もるをあるま一 西乃  
 或曰岳りがけがの山をほくの流よりとされどもあの中にも其の  
 ふのふたのころには其の地ありありゆへにけぞるよりのこころ  
 今集集千載集の細なうけに深淵をさるるもあふれたるもこれ  
 をすさつらまはつてはけるふけりもくわくふたのさるるありこれ  
 さよめるるなり長伯があらわゆる秋の存ぞあてまきあふ海に  
 ともる一〇阿つり見巻のひびの長郎に流漁あり山の岸をさる  
 十う波まれの字をた最はふ目の字とて人ぞして其をまてこころ  
 ましけりるるとなりこころはまはとぬるちのこころありけりける  
 うこのまをふくつてみ入り

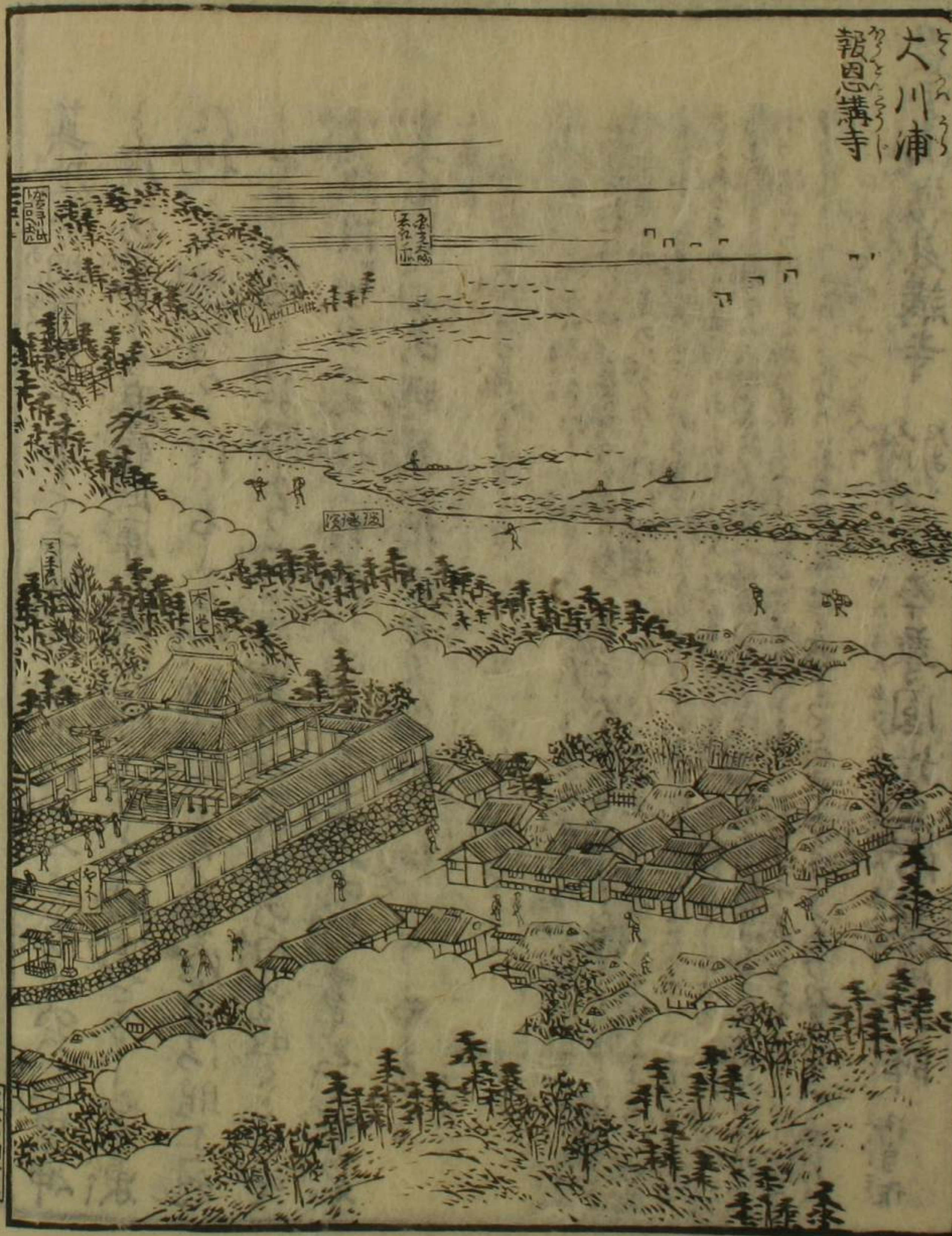
慈雲山報恩講寺

大川村 本尊 國光東漸慧成大師 寺自作



三

大川浦  
報恩講寺





多分字が...  
園少文作教化之図

平等み月若

せんりや

山

洛八上尼

傳良

夫當山念佛菩薩の像は往昔後を羽上皇院宣あつて大跡彦  
子入道あひしが災難をくつて赦免の宣有なりし終に承元二  
年冬の初津路に向つてあひ土別より船よつたたら小碓波小  
つらんといふおふしはと風波あつたりしふは十月廿日浦浦  
ある油生濱に船がこころあつた不思議や渚の山をち猫橋の芝  
より一俣土の重相まのあつたりある是れ大跡彦地は紀守の  
因縁成執の端なりと極し地名と猫橋が濱も号たらはるふ  
け浦の長は所園架孫たまりとするはりのあり  
長とてあつた 固三ふあぬ依のふたりのありあはれはけ舟と園  
後たらが由備にまじり  
るに念ふよつて浦の  
お配り 固三ふあぬ依のふたりのありあはれはけ舟と園  
まひとてく浦浦ゆまをへに遠近の道信きくまは油  
生の所園架孫たまりとす生身の浮陀の來歴まりくけを誰り

け値遇りのとんとてあつたりはるあはれつてあはれとてあはれ  
あつたり大跡彦ゆまをへに遠近の道信きくまは油  
生の所園架孫たまりとす生身の浮陀の來歴まりくけを誰り  
らせしふよりや家未代は生のあけ地は形見とてあはれ  
とてよるるはけとつるらるる様の本をとらよるる子親肖像  
を刻ませあひんや人くかといふあつたりとてあはれ  
りて其背面はあつたりちら鮮血をたつて奉る未代は  
あはれしふよりや家未代は生のあけ地は形見とてあはれ  
あはれしふよりや家未代は生のあけ地は形見とてあはれ  
推しぬめの靈像は湯仰のけしは浮塔のりあつて大跡彦ゆ  
と供したまふはねんで自ら猶と深く一帳の名号と寫し又  
彼餘材なりと大なる念珠とほつちあつてあはれとてあはれ  
お來け結縁にまじりてあはれとてあはれとてあはれ

約昏け名号にあむといはたま珠とて林名をさるるとな  
 こととて終り口は十月下旬けと船出しあそびにた  
 る人道訓とあそび報恩のあけ地ふりて瓜造立りり乃  
 而五像と安しなり不測も念の道場とけ地後の群岳  
 周擁くく山月夕ふまぬの光瓜澄くあひ倉海鳥漁と  
 して潮音是ふ女明の睡とそえた湯岸と世垢の仁界あり  
 ○什宝六字名号 ○橋本大念珠  
 大川村  
 ○産物 山少の松 檝馬目楮 法衣とら  
 章魚 鱈 鹿尾菜 桜苔 魚  
 海少は 鱸  
 紀伊國名所圖會卷之三下終

寛政八年八月官輸上准  
 文化八年五月海宇發行



若山 高市志友編述  
 浪速 武内華亭刪輯  
 平安 西邨中和圖画  
 京師 渡邊玉壺齋書

一之卷上 浪華 市田治郎兵衛  
 全 山崎庄九郎  
 平安 井上治 兵衛  
 一之卷下 浪花 山崎庄九郎  
 二之卷 京師 井上治 兵衛  
 三之卷上 全 同  
 三之卷下 浪速 山崎庄九郎  
 右刷人

紀伊國名所圖會

二編海士那賀之部仲秋發行

三編 伊都那賀之部 嗣  
 四編 有田日高之部  
 五編 牟婁郡之部 刻



江戸書林

須原屋 茂兵衛  
前川 六左衛門

名古屋書林

永樂屋 東四郎

京都書林

小川 多左衛門  
鈴屋 安兵衛

和歌山書林

帶屋 伊兵衛

大阪書林

糟屋 仁兵衛

勝尾屋 六兵衛

河内屋 太助

名所記總目錄

浪華心齋橋通  
唐物町書林

河内屋太助梓行

平安秋里羅高輯

五畿内名所圖會 全部三冊

各圖社社傳記の傳記山川並谷國  
村里名賢英哲の経路を詳記  
燈籠を以て悉く今の所を記す  
實小全備大成の去以下名所圖會

都名所圖會 全部六冊

都拾遺名處書卷 全部五冊

大和名所圖會 全部七冊

河内名所圖會 全部六冊

和泉名所圖會 全部四冊

摂津名所圖會 全部三冊

東海道名所圖會

全部六冊

本曾路名處別會

全部七冊

伊勢路名處圖會

全部六冊

仁也も別あり  
上は仁和寺  
寺余所記  
住持南宮  
てしるべき事

北陸東奥勝地真景

北陸東奥勝地真景

全部十册

山城近江越前加賀越中越後信濃上野等八箇國

前篇五册

武藏下総幸陸陸奥出羽下野相模甲斐駿河遠江参河尾張美濃後篇兩篇

伊勢大和河内播磨備前備後五册

山陰道名所図會

全部七册 近刻

南海道名所図會

全部世册

紀伊國名所図會 全部五册

淡路河波濱及

同後集後編 嗣出

伊豫土佐續刻

文中題詩諸名家寄合書  
唐土名勝圖會

直隸省部 全部六册

此書ハ唐土名勝圖會ハ前編ニシテ唐土ノ名勝ヲ述ベルニ由リ後編ニシテ唐土ノ詩題ヲ述ベルニ由リト云フ  
前編ハ全圖ヲ述ベルニ由リ後編ニシテ唐土ノ詩題ヲ述ベルニ由リト云フ  
直隸省部ハ全部六册ト云フ

唐土訓業圖會

平住専安先生撰  
後集軒輮圖  
全部十五册

山城名勝志

全部二十二册  
係十二枚箱入

山城名勝志

全部二十二册

帝都程業覽

文應山人書  
全部二册

糸乃糸

全部二册  
二面

都細見之圖

儀中折本一册

都名所之図

儀中小本一册

花洛細見圖

折本十五册  
儀中折本一册

出茶夜市七冊

全部七册

京師紀覽

全部拾五册

都茶時記

全部七册

此書ハ山城國中社社傳國の地記ト云フ  
其ノ由縁放洋一左右の地ハ白園撰  
拾二冊ト云フ  
此書ハ京都府内ノ地名  
ノ由縁放洋一左右の地ハ白園撰  
拾二冊ト云フ  
此書ハ京都府内ノ地名  
ノ由縁放洋一左右の地ハ白園撰  
拾二冊ト云フ  
此書ハ京都府内ノ地名  
ノ由縁放洋一左右の地ハ白園撰  
拾二冊ト云フ



